

2022年3月17日  
報道発表資料



## News Release

IGRいわて銀河鉄道株式会社

### 第97回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 浅沼康揮)では、「第97回取締役会」において、下記の点について承認されましたのでお知らせします。

- 【資料1】 2022年度事業計画について . . . . . p. 1~3
- 【資料2】 アクションプラン 2022 について . . . . . p. 4~9
- 【資料3】 沿線関連等の取組について . . . . . p. 10~12

※お問い合わせにつきましては、本日 17 時 30 分まで受け付けておりますので、下記担当までご連絡ください。

IGRいわて銀河鉄道株式会社  
総務部 総務グループ(広報担当)  
TEL 019-601-9981/FAX 019-601-9997  
〒020-0133 盛岡市青山 2-2-8  
URL <https://igr.jp/>

## 2022 年度事業計画

### 1. 運営方針

#### (1) 2022 年度の運営方針

2022 年度は、2013 年度に策定した「新・経営ビジョン」が計画期間の 10 年の区切りを迎えるとともに、開業 20 周年の節目を迎える年でもあります。開業以来、会社を取り巻く経営環境が大きく変化する中、安全・安定輸送を確保し、公共交通機関の役割を果たすべく、このビジョンの実現に向けて中期経営計画の実施に取り組んでいます。

しかしながら、2016 年度に寝台特急が運行終了になったことや沿線人口の減少により、旅客運輸収入が大きく減少したことに加え、2020 年度からは新型コロナウイルス感染症の拡大により、さらに厳しい経営状況が続いています。

このような中、地域の足を守ることが最大の使命であることから、2022 年度は引き続き安全・安定輸送の確保に努めるとともに、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた中長期的な視点に立ち、今後の需要の変化を的確に捉えて変革を恐れずに挑戦していき、新たな価値の創造に向けて各事業を積極的に推進していきます。

#### ア 安全・安定輸送の確保

安全・安定輸送の確保を第一とし、新型コロナウイルス感染症で変化した生活・行動様式に対応した取組や感染症対策の徹底に努めます。

#### イ 健全で安定的な経営

持続可能な経営のため、すべての事業において見直しを行い、収支計画及び設備投資計画をもとに資金繰り計画を策定し、経営状況を踏まえて金融機関等と協議の上、安定的な財務運営に取り組めます。

#### ウ 沿線地域との連携・協働の推進

地域のニーズを的確に捉え、広域的な視点で地域資源を有効に活用し、連携・協働しながら、地域の振興や経営環境改善につながる取組を推進します。

#### (2) アクションプラン 2022

2022 年度は、2018 年度を初年度とする中期経営計画の最終年度に当たることから、すべての重点項目に対し PDCA サイクル(Plan/Do/Check/Act)の「Check/Act(評価・改善)」を行い、計画の達成に向けた取組を行います。

※【資料 2】参照

#### (3) 次期経営ビジョン策定について

2013 年度に策定した「新・経営ビジョン」が 2022 年度末で計画期間の 10 年の区切りを迎えることから、社内プロジェクトを立ち上げ、今後 10 年間の「次期経営ビジョン(2023～2032)」を策定します。

## 2. 営業計画

### (1) 営業施策

#### 1. 開業20周年記念事業の実施

開業20周年を迎えるにあたり、記念事業を実施します。お客さまをはじめ、関係される皆様へ感謝の気持ちを伝えます。現在企画を検討している主な内容は以下のとおりです。

- ① 開業記念日の12月1日に、感謝イベントを実施予定です。
- ② 列車の先頭に20周年記念ヘッドマークを取付け、お客さまや沿線へ開業20周年をアピールします。
- ③ 各地域をイメージしたデザインを取入れた駅名標を、各駅に設置します。デザインを変更することにより、特別感を演出します。
- ④ お客さま及び関係者へ向けて感謝の気持ちを伝えるポスター等を制作し、各駅・車両等に掲載します。
- ⑤ 記念グッズを販売します。

#### 2. 各事業の取組

<鉄道業> 昨年に続き主要駅における利用実態調査を実施し、新型コロナウイルス感染症の影響等による行動変容を分析して、結果を踏まえてお客様の利用しやすいダイヤを検討・設定し、増収に繋がります。

また、設備投資計画を精査すると共に効率的な修繕を実施し、安全・安定輸送を確保します。

さらに、いわて沼宮内駅に駅長を配置し、地域連携の強化を図ります。

<銀河鉄道観光> 代理販売から地域のための企画旅行に特化した営業形態へ転換します。

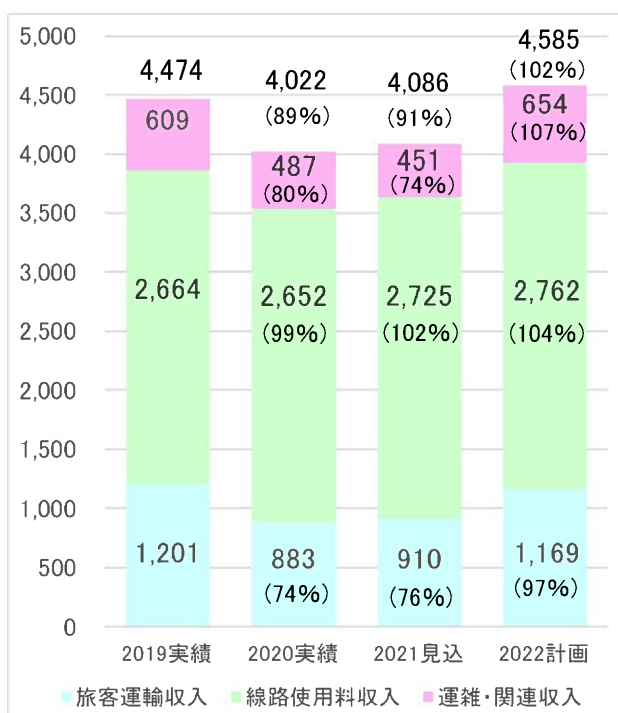
<飲食業> びすところ銀河においては、より親しみやすい店舗にするため、カフェレストラン化しメニューのリニューアルをするとともに、隣接するレンタルスペースの活用の幅を拡充することで増収を図ります。銀河ダイニング「へのへの」においては、沿線自治体・企業と連携した取組を強化し、より地域との交流を深め、増収に繋がります。

<IGR 不動産・IGR クリーンサービス> 空き家問題など新たに地域課題の解決に繋がる事業に取り組みます。

<ミニストップ折爪店> コロナ禍の影響に鑑み、今後の運営方針について検討します。

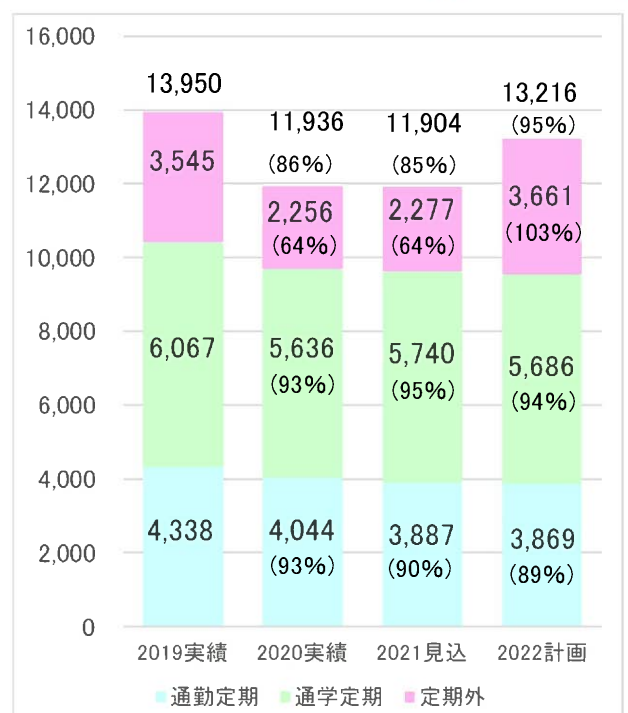
### (2) 営業収入

(単位: 百万円/年) (対 2019 年度比%)



### (3) 輸送人員

(単位: 人/日) (対 2019 年度比%)



### 3. 収支計画

(単位:千円、税抜)

項目	2022年度 収支計画 A	2021年度 収支計画 B	増減 C (A-B)	Cの主な増減要因
営業収入	4,587,076	4,428,139	158,937	
旅客運輸収入	1,169,343	1,088,273	81,070	定期外運賃収入の増
線路使用料収入	2,762,902	2,779,867	▲ 16,965	営業費に連動して減
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	654,831	560,000	94,831	商品売上の増
営業費	4,730,409	4,761,679	▲ 31,270	
人件費	1,159,160	1,131,524	27,636	採用計画を踏まえた人員増による
業務費	1,101,394	1,011,343	90,051	商品仕入等による増
修繕経費	1,969,242	2,138,968	▲ 169,726	工事費精査による減
諸税	123,250	126,231	▲ 2,981	
減価償却費	377,363	353,613	23,750	新規取得資産による増
営業損益	▲ 143,333	▲ 333,540	190,207	
営業外収益	15,165	11,741	3,424	
営業外費用	15,740	8,156	7,584	
経常損益	▲ 143,908	▲ 329,955	186,047	
特別利益	336,818	184,847	151,971	固定資産売却益等による増
特別損失	184,799	129,730	55,069	固定資産圧縮損の増
税引前当期損益	8,111	▲ 274,838	282,949	
法人税等	6,276	4,394	1,882	
当期損益	1,835	▲ 279,232	281,067	

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。



# アクションプラン2022

## ～ 挑 戦 ～

人を 地域を 未来へつなぐ、かけがえのない鉄道をめざします



IGRいわて銀河鉄道株式会社

## はじめに

---

新・経営ビジョン(2013～2022)、中期経営計画(2018～2022)の考え方に沿った今年度の具体的な計画が、ここで紹介するアクションプラン 2022 です。

2022年度は、2013 年度に策定した『新・経営ビジョン』が計画期間の 10 年の区切りを迎えるとともに、開業20周年の節目を迎える年でもあります。

アクションプラン 2022 では、今を転換期と捉え、未来のあるべき姿に向けて社員一丸となって取り組んでいくため、今後 10 年間の『次期経営ビジョン(2023～2032)』の策定も計画に盛り込んでいます。

過去の取組を踏まえたうえで、引き続き「安全・安定輸送の確保」を最優先に取り組むとともに、関連事業も含め、これまでの取組の成果を検証のうえ、沿線市町等関係者の皆さまの声を聴きながら、以下の視点に立ち、各事業の展開・見直しや運営体制の強化に努めるとともに、新たな取組に“挑戦”していきます。

### ア 安全・安定輸送の確保

安全・安定輸送の確保を第一とし、新型コロナウイルス感染症で変化した生活・行動様式に対応した取組や感染症対策の徹底に努めます。

### イ 健全で安定的な経営

持続可能な経営のため、すべての事業において見直しを行い、収支計画及び設備投資計画をもとに資金繰り計画を策定し、経営状況を踏まえて金融機関等と協議の上、安定的な財務運営に取り組めます。

### ウ 沿線地域との連携・協働の推進

地域のニーズを的確に捉え、広域的な視点で地域資源を有効に活用し、連携・協働しながら、地域の振興や経営環境改善につながる取組を推進します。

四半期ごとに進捗状況を確認し、計画を見直し軌道修正していくことによって、取組を確実なものにしていきます。(この要約版は、主なものを抜粋したものです。なお、重点項目は一部簡略化して記載しています。)



# 「安全・安心」を第一に、地域の旅客輸送・日本の物流の担い手として より信頼される鉄道であり続けます

## ◆ 社員一人ひとりが安全を最優先に業務に取り組む。

### 【さらなる安全・安心への取組】

重点項目	取組内容
○防災マニュアルの浸透、事業継続計画の充実、避難誘導等の防災訓練の実施など、自然災害への対応力を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異常時に対応する各種計画の見直し</li> <li>・ 防災の日訓練の充実</li> <li>・ 感染症対策等事業継続計画の見直し【新規】</li> </ul>
○脱線復旧訓練・実車運転訓練などの各種訓練を関連機関と連携して実施するほか、事故・輸送障害への対応力を強化するとともに、万一事故が発生した場合、被害者の救護をはじめ適切な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 踏切事故防止運動の実施</li> <li>・ 警察と連携した緊急事案対応訓練の実施【新規】</li> <li>・ 鉄道安全教室の実施</li> <li>・ 実車を使用した異常時対応訓練会の実施</li> <li>・ JR貨物総合脱線復旧訓練への参加</li> </ul>

## ◆ 鉄道施設の信頼性を確保する。

### 【線路・電路設備の品質の維持・向上】

○計画的な設備更新により修繕費を削減するとともに、設備品質の維持・向上を図り、信頼性を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種工事の計画的な実施(ロングレール交換、橋マクラギ交換、電化柱の更新、橋りょうの重防食塗装 等)</li> <li>・ 不要設備の撤去及び低稼働設備の運用見直しによるランニングコストの削減(不要建物の撤去 等)</li> </ul>
○地震や集中豪雨等自然災害に対して強い設備を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川増水時における河岸の流失防止ブロックの設置(根固めブロック設置)</li> <li>・ 河川増水時における橋脚の傾斜現象検知装置の設置(洗堀検知装置設置)</li> </ul>
○技術勉強会や各種教育機関への計画的な派遣訓練を継続的に実施することで、プロパー社員の技術力を確立し、これまで培ってきた鉄道保守技術の継承を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軌道・土木・電力・信通の系統毎に定期的な技術勉強会を開催</li> <li>・ 安全技術勉強会を設備管理所全体で年2回実施</li> </ul>

### 【車両・輸送品質の向上】

○車両検修に係る作業の円滑化を図るとともに、車両の延命化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連会社との合同訓練会の実施</li> <li>・ 車両延命に不可欠な部品等の計画的な交換</li> <li>・ 運転状況記録装置のオーバーホール</li> <li>・ 蛍光灯のLED化</li> </ul>
○将来の車両更新に備えて、車両製造・導入動向を調査するとともに、より効率的な車両運用のあり方や輸送需要や異常時対応をも考慮した必要車両数について、関係機関と検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社内に発足させた車両更新プロジェクトを中心として、2027年度に想定される3編成(6両)及び2031年度に想定される4編成(8両)の車両更新について、引き続き関係機関との検討を進める。</li> </ul>

踏切事故防止運動(境田川原踏切にて)



実車運転訓練会(列車抑止手配訓練)



レール輸送(一戸駅構内にて)



## 誰もが利用したくなるような、お客さまにやさしい、魅力的な鉄道をめざします

### ◆ お客さまの視点に立ったサービスを提供する。

#### 【顧客ニーズに沿ったサービスの提供等】

重点項目	取組内容
○“お客さまの声”をはじめとしたサービス向上に資する情報の収集と分析を進めるとともに、お客さまに気持ちよくご利用いただけるサービス知識・技術の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客さまの声の収集分析及び共有化</li> <li>サービス向上会議による議論推進及び改善</li> <li>サービス知識・技能向上のセミナーへの参加</li> </ul>

#### 【地域特性に応じた発信力の強化】

○沿線市町や地域の皆様と連携しながら、駅を中心とした地域活性化に取り組むとともに、ニーズに沿った企画や地域に関する情報を発信し、地域に根差した会社運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いわて沼宮内駅長配置による新体制への移行【新規】</li> <li>沿線市町や地域の皆様との繋がる機会の創出及び全社員の広報意識の醸成による情報発信力の強化</li> <li>記者懇談会の実施</li> <li>沿線自治体広報担当者との意見交換</li> <li>社内広報体制の見直しによる情報発信力の強化</li> <li>銀河鉄道まつりの開催【20th】※1</li> <li>ファンクラブ会員に向けた沿線物産(パートナーズ会会員関連)の情報発信及びオンラインショップの開設【新規“ちりつも”】※2</li> <li>沿線への誘客ツアーの企画・実施【20th】</li> <li>地域イベントを通じた交流促進</li> <li>HPやSNSによる情報発信を分析のうえ、ターゲット及び環境等を踏まえた効果的な情報発信の実施【20th】</li> <li>沿線高校生制作の鉄道利用ポスターの掲示【新規“ちりつも”】</li> </ul>
---	---

※1 【20th】:開業 20 周年記念と関連した計画があるものに記載しています。

※2 【ちりつも】:業績向上・業務改善を目的とした、社内公募企画の呼称です。

### ◆ お客さまにとって便利で利用しやすい鉄道をめざす。

#### 【駅や列車の利便性向上】

○“お客さまの声”や現場の提言を反映し、限られた資源の中でより良いダイヤを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者拡大を目標とした次期ダイヤ改正に向けての調査(主要駅利用状況調査)</li> </ul>
○サイクルトレインについて、具体的な検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係団体との連携の下で、サイクルトレインのツアーを実施</li> </ul>
○駅や列車の利便性向上について、具体的な検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅設備等の IC 化に向けて引き続き検討</li> <li>リアルタイム運行情報の提供に向けてシステム導入の検討【新規“ちりつも”】</li> <li>JR 田沢湖線前潟駅新設に伴う乗継運賃の検討</li> </ul>

#### 【バリアフリー環境の整備】

○バリアフリーに関する知識・技術の向上に取り組み、お客さまにとって利用しやすい鉄道をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子・携帯用スロープ等の対応訓練の実施</li> </ul>
--	--

I GR HUG PASS



銀河ファンクラブマガジン



I GR CM ワンシーン



ラッピング列車(二戸市:漆・一戸町:縄文)





## 地域のかげがえのない足として、将来にわたり健全で安定的な経営に努めます

### ◆ 地域鉄道を担う“民間”会社としての社会的な責務を果たす。

#### 【黒字経営の継続】

重点項目	取組内容
○徹底した経費節減に努め、費用と収入の均衡を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期収支計画の随時更新</li> <li>・ 次年度事業計画策定フローの見直しの実施</li> <li>・ 予算管理の精度の向上及び評価の実施</li> <li>・ 業績向上・業務改善を目的とした社内公募企画の強化</li> </ul>
○鉄道旅客事業及び関連事業について、増収増益に繋がる取組を強化する。	<p>【鉄道事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学生の利用を促進させる企画の実施</li> <li>・ ラッピング列車ツアー及びイベントの実施【20th】</li> <li>・ 開業20周年を記念し、各種イベントや商品の販売、他社と連携した共同企画商品を販売【新規】【20th】</li> </ul> <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旅行業において代理販売を主とした営業からの形態転換について推進【新規】</li> <li>・ 旅行業において沿線への誘客を目的とした着地型旅行（企画旅行）の営業強化【新規】</li> <li>・ 飲食業（びすどろ銀河：青山駅南口）において、より親しみやすい店舗にするため、カフェレストラン化しメニューのリニューアルを実施【新規】</li> <li>・ 飲食業（銀河ダイニング「へのへの」：二戸駅に併設された「なにやーと」内）において、沿線自治体・企業と連携した取組の強化【新規】</li> <li>・ IGR 不動産において賃貸物件の画像提供を強化し掲載商品の充実を図るほか、新規物件の開拓【新規】</li> <li>・ IGR クリーンサービスにおいて不動産と連携し、年度末の引越し等による廃棄物回収の受注を強化【新規】 また、空き家問題等、地域課題の解決に資する事業を実施【新規“ちりつも”】</li> <li>・ オンラインショップの充実を図り、物販強化【20th】</li> </ul>
○貨物調整金制度の維持継続等について要請等を行い、十分な理解を得るよう活動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 並行在来線鉄道事業者協議会による活動</li> </ul>

#### 【“まちづくりの装置”としての鉄道】

○駅舎の改築や新駅の設置など、住民の利便性向上と地域の発展に大きく資する事業について、引続き沿線市町・県とともに検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各駅の利用状況及び周辺地域の状況を踏まえ、新駅設置又は駅舎改築の必要性について検討</li> <li>・ 関係市町等との担当者会議の実施</li> </ul>
○未利用地や未利用スペースの有効活用により収益の増加を図るとともに、地域のまちづくりに貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅未利用スペースの新たな活用について検討</li> <li>・ びすどろ銀河に隣接するレンタルスペースの活用の幅を拡充し、地域交流人口の増加に寄与する【新規】</li> </ul>
○道路と公共交通双方の利便性向上のため、地域の交通計画を踏まえ、マイカーから公共交通機関へのシフトを図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県及び沿線市町の公共交通計画への参画</li> <li>・ 北いわて産業・社会革新推進コンソーシアムへ参画し、北いわて MaaS の活用に係る個別プロジェクト等に取り組む【新規】</li> </ul>

◆ 徹底した効率経営を追求するとともに関連事業を展開し、健全な経営を維持する。

【長期的に安定したキャッシュフローの確立】

重点項目	取組内容
○設備投資に要する資金の調達が必要となることから、長期的な視点でキャッシュフローの健全化を進めるため関係機関と検討を進める。	・ 資金繰り及びキャッシュフローシステムによる財務運営の見える化

【人材の育成と適正な人員管理】

○採用活動を積極的に行い、優秀な人材を確保するとともに、外部研修機関の活用や他社への派遣研修等、社員研修の充実を図り、社員一人ひとりの知識技能向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 採用イベントへの積極的な参加</li> <li>・ Uターン、Iターン人材を含めた経験者採用の強化に向けた関係機関へのPR強化</li> <li>・ 社員の知識技能向上を目的とした各研修の実施</li> <li>・ 短期派遣研修の実施【新規】</li> </ul>
○今後、必要とされる人材の育成に向けて、育成の方向性等を明確にするとともに、働き方の見直しや業務改善等による時間外労働の削減と社員のモチベーションの向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新人事制度の運用と人材育成方針・計画の作成</li> <li>・ 働きやすい環境に向けたIT環境の整備</li> <li>・ テレワークの導入に向けた検討【新規】</li> <li>・ リフレッシュ休暇創設【新規】</li> </ul>

【業務改善の推進】

○チェック体制の強化や、業務の改善・効率化に不断に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸規程における見直しの実施</li> <li>・ 安全総点検の点検項目の適正な設定</li> <li>・ 小口現金のキャッシュレス化による業務の効率化【新規“ちりつも”】</li> <li>・ タブレットの有効活用による業務の効率化【新規“ちりつも”】</li> <li>・ 遠隔監視カメラ活用による不正乗車の抑制【新規“ちりつも”】</li> </ul>
--------------------------------	---

【その他】

○今後の経営環境の変化に対応できる経営方針の見直し	・ 持続的経営に資する次期経営ビジョン(2023~2032)の策定【新規】
○開業20周年記念行事の実施【新規】	・ 開業20周年を迎えるにあたり、記念事業を実施。企画を通じてお客さまをはじめ、関係される皆様へ感謝の気持ちを伝える。【新規】

新入社員研修(ハンディキャップ体験) 社内公募企画発表会 通称“ちりつも” 次期経営ビジョン策定会議



## 沿線関連等の取組について

### 1. 北いわて産業・社会革新推進コンソーシアムについて



新たに設立された「北いわて産業・社会革新推進コンソーシアム」に参画しました。「北いわて MaaS を活用した誘客・にぎわい創出プロジェクト」のスタートメンバーとして、当社の強みである「鉄道」と「地域との繋がり」を活かし、地域資源を活用した交流人口の拡大等に取り組みます。

(写真: 設立総会参加の様子(オンライン))

### 2. ラッピング車両について

【(縄文×漆)IGR ラッピング列車運行事業】



県北地域への観光客の誘客促進や IGR の利用促進を目的に、二戸市と一戸町がデザインしたラッピング車両を 2 月 17 日から運行開始しました。

デザインは、二戸市の「漆」と一戸町の「御所野遺跡」からイメージされたものになっています。

(写真: 車両の西側(盛岡方))

### 3. 金田一温泉駅のトイレ改修について

【いわて銀河鉄道衛生環境整備事業】



二戸市の支援を受け、金田一温泉の玄関口である“金田一温泉駅”のトイレが完成し、使用開始しました。水洗化によるコロナ感染症対策や多機能トイレ設置により、身障者の方等が利用しやすいトイレになりました。

(写真: 金田一温泉駅の多機能トイレ)

### 4. 「日本遺産奥南部漆物語」の委託事業について

【日本遺産奥南部漆物語推進協議会委託事業】



日本遺産奥南部漆物語地域文化財総合活用推進業務において、当社が受託した「産業観光人材育成事業(国内外来訪者向けの案内ガイド事業)」と「産業観光普及啓発事業」のプログラムを 12 月～3 月に実施したほか、テーマに沿ったツアーも実施しました。

(写真: ツアー実施風景写真)

### 5. いわて銀河鉄道魅力向上事業について

【いわて銀河鉄道利用促進協議会事業】



認知度を高めることによる利用のきっかけ創出とマイルール意識の醸成を図ることを目的として、IBC 岩手放送及びテレビ岩手にて CM を放映しました。

(1/24～3/31 の間で計 87 本)

なお、IGR のホームページ及び YouTube では、フルムービー(2 分 10 秒)を公開しています。(画像: 動画のワンシーン)



沿線地域の名物のイラスト募集を行いました。イラストは 100 件を超える応募があり、シールに加工しつり革に貼るイベントを 3/26(土)に予定しています。

また、イラストをモチーフとしデザインしたものを各駅に装飾します。今後は駅名標やグッズ等に展開することを検討しています。

(画像: 二戸駅のデザイン)



## 6. ENSEN(沿線)つなぐダイニングの取組について

【県北広域振興局委託事業】



「銀河ダイニングへのへの」と「びすとろ銀河」では、県北地域の食材や加工品の知名度向上、販路拡大及びファン獲得に向けた取組として、

岩手県北食材を食べよう！

第3弾「にのへ りんごフェア」(12/10～1/16) 写真(上)

第4弾「海の幸を楽しむスペシャルランチ」(1/25～2/9) 写真(下)

を開催しました。

第3弾では「冬恋はるか」の購入場所の問合せが多数あり、二戸市が県内有数のりんごの産地であることをPRできました。また、第4弾は、「銀河ダイニングへのへの」においてマスコミ効果もあり、地元の方を中心に好評でした。

## 7. 「金田一温泉郷 ゆ～ゆ～博」について



「金田一温泉郷ゆ～ゆ～博」は、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となりましたが、2022年度中の実施に向け実行委員会を継続することになりました。

また、3/26(土)にグランドオープンとなる「カダルテラス金田一」のオープン企画として、IGRと宿泊がセットになったプランや日帰りプランを計画しています。

(写真:カダルテラス金田一)

## 8. 「いわて旅応援プロジェクト」に係る取組について



「いわて旅応援プロジェクト」を活用し、ホテルメトロポリタン盛岡と企画した、朝食プラン(IGR 日帰りパック)や沿岸の観光素材を活用したグループツアーを実施しました。引き続き季節や地域の魅力を発信できる旅行商品を企画する予定です。

(写真:山田のカキ小屋ランチと南リアス線の様子)

## 9. 企画列車「さんてつ銀河の星めぐり 2022」の取組について



前回ご好評いただきました「さんてつ銀河の星めぐり」をリニューアル(700系とレトロ車両の2両編成で運行し「三陸御膳」や「スイーツ列車」等)して計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため中止となりました。

実施可能な状況となりましたら、改めて企画する予定です。

(写真:いわて銀河鉄道線を走る700系車両(2020年))

## 10. 広告の取組について



「野田村 PR ポスター」(3/8～3/21)と「沿線不動産の営業ポスター」(2/23～3/2)の電車中吊りジャック広告を実施しました。また、大塚製薬のポカリスエットプロジェクト「ポカリ写真部」の“青い場所”のひとつとして青山駅に広告看板を設置しました。なお、大塚製薬の公式 SNS アカウントでは、動画も公開されています。

(左・中:野田村 PR ポスター、右:青山駅上りホーム)

#### 11. IGR銀河ファンクラブについて



ファンクラブ事務局では、会報を年2回発行、メールマガジンを毎月1回発行して会員の皆様に沿線の情報発信をしています。また、色々な会員特典や優待を実施した効果により、今年度は79名(133%)の会員拡大となり、3月現在の会員数は319名となっています。

#### 12. IGRパートナーズ会について



今年度の定期総会は二戸市で開催すべく準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。定期総会での活動報告の代替として、書面にて沿線活性化のための取組を、会員の皆様に報告しました。